

## 令和5年度 在宅医療・救急医療連携検討会 概要

### 1 検討会の目的

高齢者の救急搬送が増加する中で、在宅で最期まで療養することを希望している患者が急変した際に、本人の意思に沿わない救急搬送が増加することが懸念されている。

在宅医療関係者や消防機関、救急医療機関、警察関係者との間で、患者の病状や希望する療養場所、延命治療に対する意思などの患者情報を共有し、在宅医療・救急医療連携における連携体制を構築する。

### 2 令和5年度 開催概要

日 時 令和5年12月7日（木）

場 所 横須賀市医師会館 理事会室

出席者 在宅医、病院救急担当医、市内警察署、横須賀市消防局救急課

主なテーマ

- (1) 「自宅看取りを希望している方について、家族などが119番通報してしまった際の対応について」
- (2) よこすかりンクパスポート（横須賀市医師会発行）について

#### 【横須賀市消防局から】

人生会議（ACP）を実施した時点の本人の意思は、変わるものという前提で動いている。消防局としては、119番通報があった時点で、救命の意思があると判断し、患者本人の事前の意思表示はリセットされ、人工呼吸及び胸骨圧迫を実施し搬送することとなる。

消防局としても患者の事前の意思に沿った対応をしたいという思いは持っているが、現状の法律の枠組みでは、現場に到着後、処置せずに引き上げることは難しい。

#### 【警察署から】

消防も警察も法律に基づいて動くのが原則となる。患者本人の意思を尊重して臨機応変に対応したい場面もあるかとは思いますが、個人が罰せられるリスクがある。法整備が進まないと難しい問題だと思う。

#### 【在宅医から】

現状の法律の枠組みを変えることは難しいため、在宅療養に関わる多職種から、患者本人・家族に対し、自宅看取りの事前の意思がある場合には119番通報をしないことを啓発していくことが大切と考える。

以上